

令和5年度学校評価(重点目標) 松本筑摩高等学校 定時制夜間部

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、		「心あたたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の錬磨 を目的とする。		今年度の重点目標			
		1 いじめや暴言・暴力を絶対に許さない安心・安全な学校をつくる。 2 社会人基礎力(特に挨拶できる力)を育てる。 3 生徒の力を引き出す「わかる授業・伸ばす指導」を工夫し、学力を定着・伸長を図る。 4 地域に開かれ、地域とつながる学校をつくる。			
分野	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程、シラバスの具体的な研究を深めるとともに、新教育課程における学校設定科目の適正配置を進められたか。	B	成果 ・学校設定科目の配置については、在校生の学ぶ意欲に沿って適正に行うことができた。 課題 ・教授者がより観点別の視点を磨き、科目の内容を高めていくことが必要と考えられる。 ・本年度は大きな変更を加えなかったが、今後は3年修業を希望する生徒などにも配慮した科目配置の検討も必要と考える。	・来年度は新課程の全学年完全適用となる令和7年度に向けて、教育課程表の変更の必要性や科目配置の見直しに関する慎重な検討が必要となる。 ・学校設定科目については、生徒理解を進める中で生徒の特性に応じた教材研究を行っていく。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒や観点別評価に対応した授業展開の研究と職員の協力体制の構築を図り、少人数学級・講座の特長をいかしたか。	B	成果 ・生徒の特性に沿った授業展開や生徒の希望に合った科目選択が実施できた。 課題 ・生徒の進路希望に関連した選択科目や授業内容自体の再検討が必要と思われる。 ・観点別評価を活かした授業展開には、学習課題の設定や発問の仕方を含め、今後も改善が必要。また、習熟度別講座展開も今後更に必要度が増してくるものとする。	・学年別の選択帯のほかに学年をまたいで選択講座帯を設定し、生徒の希望に対応できるように考えるなど、生徒がより主体的に学べるような環境づくりや授業づくりを進める。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	3 お互いを尊重し合う心を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取組みを行うことができたか。	B	成果 ・昨年度に引き続き松本市の協力も得ながら人権学習を実施し、生徒一人一人が人権意識を理解しながら学校生活を送ってくれた。 ・学校やアルバイトを通しての日々の生活の中で対人関係を学んでいる生徒が多い。 課題 ・アンケート(アセス)実施後の効果的な活用方法についての研究が必要。	・引き続き、生徒一人一人が授業を大切に、基本的な生活習慣を身に付け、クラスの間関係を大切にしながら学校生活を送れるよう、SST(ソーシャルスキルトレーニング)などを積極的に取り入れ、更なる生徒指導・生徒支援の充実を図る。
	生徒理解を深める相談支援	4 生徒相談・カウンセリング体制の充実を図りながら、個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動の充実につながる支援を行うことができたか。	A	成果 ・様々な場面で生徒の情報や課題を職員全体で共有した。特に学習に課題のある生徒については、校外から支援員を招きアドバイスを受けることができ有益であった。 ・多様な生徒の指導には、専門家の助言が欠かせないので、スクールカウンセラーとも積極的に連携を取り合った。 ・支援委員会を設置した事により、早めに生徒への対応を検討することができ良かった。 課題 ・生徒の些細な変化や行動・サインを見逃すことなく、情報を職員全体で共有し、生徒支援につながる体制の更なる充実が必要である。	・外部機関との連携を図り、特別な支援を必要とする生徒の自立につながる指導と保護者の理解を得られる取り組みを継続していく。 ・生徒がより主体的に学べるよう、授業づくりを進める。 ・日頃の小会議においても、生徒に関する情報共有の時間を引き続き設けていく。
進路指導	進学・就職指導の充実	5 一般常識・課題を突破できる力をつけ、進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	A	成果 ・学校設定科目(ベーシック国語、数学、英語、社会)により、教科の基礎力アップを図った。また、卒業年次生の進学・就職試験に際しては、担任・進路担当を中心に、面接練習や履歴書など個別指導も充実させ成果が上がった。 ・学校設定科目「就職チャート」において、進路希望を達成するために基礎的な知識・教養を高める内容を継続的に実施するとともに、学習的な課題に対して自ら取り組む態度を養う取り組みを取り入れ生徒の学力等の向上に寄与した。 課題 ・学力向上の必要性を感じていなかったり意識が向かなかったりする生徒に対して、どのように理解を深めるか確かな支援をすることができるかが課題である。	・学校設定科目(教養基礎、就職チャート、ベーシック)等による学力のさらなる伸長を図るとともに、個別指導についても更に充実させる態勢を整えていき、粘り強く指導を続ける。
	キャリア教育の推進	6 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な探究の時間」等の中で、体験活動を経験させることができたか。	B	成果 ・「総合的な探究の時間」を中心に外部の講師を招いてキャリア教育を実施。自己肯定感及び他者との適切な関わり方を学ぶ機会を全学年通して設けるなど包括的にキャリア教育を実施することができ、社会性の向上を図ることができた。 課題 ・生徒に対して、様々な分野における課題等を提示し考えさせることができたが、生徒によっては個々に応じたより丁寧な介入や指導が必要なケースがある。	・全教育活動を通じ自己肯定感の醸成と高揚を目標とし、実体験を伴うキャリア教育を推進していきたい。 ・学びの指標アンケートを通して自己肯定感及び自信が曖昧な生徒も見受けられるため、全職員で協力しながら自己肯定感を高めるためには何が必要か議論・検討を重ね、対策・支援を実施したい。また、アンケートの質問事項に加えるべき新たな観点があるかも今後も検討していく。アンケート結果については、生徒にしっかりフィードバックする。
教育活動	クラス運営	7 通常の連絡・保護者懇談会を活用し、保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。	A	成果 ・ホームルーム担任を中心に家庭とは密に連絡を取り合い、良好なクラス経営ができている。 課題 ・毎日のSHRで実施されるドリルは、学校生活のリズムをつくり、生徒の学習への意識付けに良い影響を及ぼしているが、遅刻をしたり、欠席をする生徒もいる。	・3年間での卒業を目指す生徒には、午後部の授業の選択や通信制での単位修得を勧めるなど個々に応じた履修指導を行い、学校生活や将来に向けた考えが前向きになるよう家庭と連携し支援する。
	生徒会活動などの充実	8 生徒が主体的に生徒会活動・部活動に取り組むことができるよう支援ができたか。	A	成果 ・生徒会活動は午前部・午後部と共同して文化祭を開催した。また、生徒会執行部が中心となり各行事を企画・運営することができた。 ・4年生が中心となり、生徒会やクラブの活動が積極的に行われた。 課題 ・夜間部の生徒数が減少してきており、活動の担い手、規模や予算の見直しが必要である。	・少人数化してきているため、身の丈に合った内容や支出へと対応していく。その中で最大限の活動ができるよう生徒をサポートしていく。
学校運営	円滑な学校運営	9 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	B	成果 ・欠課数の管理や伝達において、支障が生じることなく通知することができた。 ・データによる基本的な理解のため、生徒の状況を職員間で共有した。職員全体が一致した指導を進めるため有用であった。 課題 ・生徒の情報等は日々変化・更新されており、共有したデータのアップデートが重要である。	・引き続き生徒データの管理及び資料作成に細心の注意を払う。正確かつ早急なデータ作成を徹底する。 ・データのアップデートの機会を設定したい。 ・懇談会等を通して生活状況の変化を把握し、資料を円滑に活用し、情報共有できるようにする。
		10 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	A	成果 ・少人数ということもあり、全ての生徒が取り組む姿を見ることができ把握しやすい。 ・生徒の状況を理解したうえで、実情に応じたLHR活動や総合的な探究の時間における探究活動を進めることができた。 ・学習活動や行事については、その実施時期などを含め、その時の生徒の状況を把握しながら適時適切となるよう心掛けることができた。 課題 ・使用する言葉や意識について配慮する必要がある。	・様々な言葉の使い方や考え方について、研修等を通して職員自身の意識向上を図る。 ・多様な生徒の様子を把握し、一人ひとりの生徒の成長を目指して行事を進めるとともに、教職員全体で様々な情報を共有しながら学校運営を進めていく。
	開かれた学校づくり	11 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々の学校への理解)	B	成果 ・夏季休業中に中学校職員向けの学校説明会を実施し、概ね好評であった。また、11月には夜間部の説明会・授業公開・体験入学を行い、参加者の理解を深めた。 ・行事毎にホームページに掲載し、校内の様子を伝えることができた。 課題 ・結果的に志願者が少なく残念であった。	・体験入学では、生徒会役員からの学校説明も好評で交流を深めることができていた。今後もさらによりよく充実させていく予定である。 ・本校の良さを中学生等に伝えるための効果的な方法について検討を重ね志願者増を図る。
	12 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	成果 ・生徒生活体験発表大会での発表や全校での会場視聴および作品展示への協力等により、夜間部の活動を周囲に理解してもらえやすくなった。 課題 ・新型コロナウイルス感染症の影響で様々な取り組みが制限されていた影響を元に取り戻し、更に発展させていく工夫が必要である。	・それぞれの組織と連携し、進路について必要に応じてサポートしていただけるような体制づくりも考えていきたい。	